

平成 26 年 6 月 3 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23310181

研究課題名（和文）グローバル大国・中国の出現と東アジア—学校間交流による学際的研究

研究課題名（英文）The Emergence of China as a Global Power and East Asia: Interdisciplinary Research through Inter-School Collaboration

研究代表者

田中 仁 (TANAKA, HITOSHI)

大阪大学・法学（政治学）研究科（研究院）・教授

研究者番号：60171790

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,500,000 円、（間接経費） 3,450,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は、グローバル大国・中国の出現によって招来しつつある課題群を確認するとともに、それら相互の連関と構造を明らかにすることによって、課題解決のための処方を探ろうとするものである。2013年8月、第7回国際セミナー「現代中国と東アジアの新環境」を大阪大学で開催し、本研究課題の成果を集約する場とした。終了後、二つの総括セッションへの提出論文を精査・改訂し、論文集『東アジアリスク社会—発展・共識・危機』『21世紀の日中関係—青年研究者の思索と対話』を、OUFCブックレット第二巻、第三巻として発行した。

研究成果の概要（英文）： This research project aimed to address and analyze the structure of a set of regional interrelated problems arriving with the rise of China to a global power. The results of research activities were reported and discussed in the international conference held at Osaka University in August 2013. The revised proceedings of the conference were published in two volumes (OUFC Booklet #2 and OUFC Booklet #3).

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：国際研究者交流 20世紀東アジア 日中関係 学校間交流 中国：台湾

1. 研究開始当初の背景

(1) 学術的背景

①21世紀にグローバル大国・中国が出現することは確実だろう。中国のグローバル大国化は、中国社会の構造的な変容と、中国を取り巻く国際環境によってもたらされた。中国の構造的な社会変容がどのようなものであったのかを問うことは、20世紀における中国の変化の内実を問うことにほかならない。100年単位の大きな歴史的な枠組みのなかで、20世紀中国と今日の中国との間の連続性を捉えなおす必要がある(第一の視点)。

②中国がおかれた国際環境の変化もグローバル大国・中国の出現を促した。その際とりわけ重要だったのは、1970年代以降顕著となっていくグローバリゼーション化の進展である。それは中国自身に「改革・開放」路線の選択を迫るものであったのみならず、中国の周辺に位置する地域・エスニック集団と中国との間のさまざまな相互浸透のしかたにも影響をおよぼした。本研究は、中国の周辺にある地域やエスニック集団とグローバル大国・中国の関係に着目したい(第二の視点)。

③グローバル大国中国の出現は、東アジアの国際環境の構造的な変化をもたらさずにはおかないだろう。今日の日中関係は容易に政治問題化するデリケートな問題となっている。このことからすれば、20世紀の日中関係を視野に納めながら今日の東アジア国際環境の不可欠の一部をなす日中関係を吟味することは、重要かつ緊要な課題である(第三の視点)。

(2) 本研究を着想するにいたった経緯

本研究は、大阪大学中国文化フォーラムの研究活動、とりわけ科学研究費補助金基盤研究(B)「現代“中国”の社会変容と東アジアの新環境」(2008～2010年度)の研究成果を確認し、それを発展させる具体的方途として着想された。すなわち：

①大阪大学中国文化フォーラムと中国・南開大学歴史学院、台湾・東華大学歴史学系による国際シンポジウム「現代中国と東アジアの新環境」の定期開催である(第1回2007年南開大学、第2回2008年東華大学、第3回2009年大阪大学、第4回2010年贛南師範学院)。この間「学術交流覚書」「三地学校間交流に関する申合せ」を作成、組織委員会を立ちあげて定期開催の条件を獲得した。今日の東アジアが地球上で最もダイナミックな展開を遂げている地域であり、経済・政治・社会などすべての領域で大きな変容を遂げつつあるとともに、その一方で経済格差や政治的分断など他地域とは異なる深刻な課題を抱えている。このような現実をふまえたとき、学校間交流という国際交流のスタイルは、東アジア内部の各地域の交流を推進し実体化するためのひとつの有効な手立てであろう。

②大阪大学大学院高度副プログラム「現代中国研究」の開講である(2010年度)。必修科

目のオムニバス授業「現代中国研究」はディシプリンを異にする13人の教員がさまざまな研究科の大学院生に講義を行った。20世紀中国史を基軸とする学際研究の構築という本研究の着想は、出講者によるミーティングから得たものである。

③上記科研「現代“中国”の社会変容と東アジアの新環境」(2008～2010年度)の成果として田中仁・三好恵真子編『共進化する現代中国研究：地域研究の新たなプラットフォーム』としてとりまとめた(2012年3月大阪大学出版会)。同書の構成「第一部：グローバル大国・中国を透視する」「第二部：周辺を見つめる」「第三部：日本の立ち位置を凝視する」が本研究における三つの視点にほかならない。

2. 研究の目的

本研究は、グローバル大国・中国の出現によって招来しつつあるさまざまな課題群を確認するとともに、それら相互の連関と構造を明らかにすることによって、課題解決のための処方を探ることを目的とする。

その際、グローバル大国・中国の出現と東アジアの関係に関わる三つの視点(a. 20世紀中国の軌跡との連続性を問う視点、b. 台湾・モンゴルや華僑・華人など「周辺」から問題の所在を問う視点、c. 通時的・共時的な日本の位置どりを凝視する視点)を重視し、国際シンポジウム「現代中国と東アジア新秩序(現代中国と東アジアの新環境)」による東アジア学校間交流を推進するとともに、中国20世紀史(歴史学)を基軸とする学際研究の構築に取り組む。

3. 研究の方法

(1) グローバル大国・中国の出現と東アジアの関係に関わる三つの視点に対応する三班(時間軸班、社会空間軸班、日中関係軸班)を設ける。班ごとに歴史学と諸ディシプリンとの対話をすすめ、直面する課題群を確定するとともに相互の連関と構造を明らかにする。

(2) 国際交流班(三地学校間交流に関わる組織委員会)は、国際シンポジウム開催に関わる調整とともに、東アジア学校間交流の展開と深化について検討する。

(3) 基礎研究班(大阪大学大学院高度副プログラム「現代中国研究」担当者により編成)は、現代中国研究に関する標準的テキストの公刊をめざす過程で獲得した知見を時間軸班・社会空間軸班・日中関係軸班にフィードバックすることによって、三つの視点を総合しうる論点を獲得する。

(4) 本研究課題の成果として、2013年に大阪大学で第7回国際セミナー「現代中国と東アジアの新環境」を開催する。

4. 研究成果

[2011年度]

(1) 2012年3月、沖縄セミナーを開催し、『共進化する現代中国研究』の合同書評会を通し

て今後の研究課題の方向性に関する討論を行った。同時に2012年8月に台湾・東華大学で開催する第6回国際セミナーの持ち方について、現代中国研究に関する東アジア学際的プラットフォーム構築とその展開という観点から協議した。このセミナーにおいて、(a)2012年度に現代中国研究にかかわるテキストをとりまとめること、(b)第6回国際セミナーでは日本国内での若手研究者、ならびに東華大学での歴史系以外のスタッフの参加を促すこと、(c)「リスク化する中国と東アジア」を本研究全体の課題とし、2013年に大阪で開催する国際セミナーに向けて具体化を図ることを確認した。

[2012年度]

(2)2010年度から実施してきた大阪大学高度副プログラム「現代中国研究」におけるオムニバス講義の教材研究の成果を総括し、現代中国地域研究のテキストを『現代中国に関する13の問い：現代中国地域研究講義』（大阪大学中国文化フォーラム編）を作成した。

[第一部 20世紀中国の射程]

第1章 漢族と非漢族をめぐる史実と言説：広東省を中心に（片山剛）

第2章 博覧会における「文明」と「野蛮」の階梯：人類館事件をめぐる清国人留学生の言説（福田州平）

第3章 法治主義発展史とそこにおける中国（高田篤）

第4章 日中関係の転機と歴史叙述：革命の語り、戦争の記憶（田中仁）

第5章 「華僑」「華人」と東アジアの近代（宮原暁）

[第二部 21世紀の中国と東アジア]

第6章 中国ロックに見るワールドインパクト：中国ロックと中体西用（青野繁治）

第7章 「民族」概念を使いこなす「脱政治化」論と「民族」の政治論的転換について（木村自）

第8章 中国の開発と環境：「生態文化」の視点から（思沁夫）

第9章 食の安全・安心・信頼：中国食品を巡るリスクコミュニケーション（三好恵真子）

第10章 東アジア地域秩序の変容：アメリカの覇権秩序から多国間主義の秩序へ（山田康博）

第11章 「経済大国」化する中国のインパクトと新たな成長へのジレンマ（許衛東）

第12章 アメリカの戦後台湾政策：形成期を中心に（高橋慶吉）

第13章 過渡期にある中国の核戦力と核戦略（竹内俊隆）

同書をOUFCブックレット（ISSN2187-6487 オンライン）第1巻としてウェブ上で公開した。

(3)2012年8月、台湾・東華大学で第6回国際セミナー「現代中国と東亜新格局」を開催した（日本・中国・台湾の15大学、44名

が参加）。

(4)東アジア大学間学術交流の成果として、『現代中国変動と東亜新格局・第1輯』を中国・社会科学文献出版社から刊行した。また、個々の研究成果を『大阪大学中国文化フォーラム・ディスカッションペーパー』として11篇の論考を公表した（うち台湾セミナー関連10篇、若手・大学院生の論考4篇）。

(5)本研究の成果を問う2013年8月に大阪大学で開催する第7回国際セミナーについて、コンセプトと方向性を以下のように具体化した。すなわち、(a)自由論題のほかに、総括セッション（リスク社会：発展・共識・危機）と大学院生セッション（21世紀の日中関係）をひらく；(b)総括セッションは、今日東アジアで生起している問題をウルリッヒ・ベックが提起した「リスク社会」の観点から学際的に正面から議論する；(c)次世代育成としての大学院生セッションでは、錯綜する東アジアの現況をふまえながら、21世紀の日中関係を「考え」対話することの意味と意義をほりさげて検討する、ことにした。

[2013年度]

(6)2013年8月、第7回国際セミナー「東アジアの新環境：発展・共識・危機」を大阪大学で開催し、本研究課題の成果を集約する場とした。中国・台湾からの参加者17名をふくむ70名が参加し約40の学術報告を行った。この国際セミナーでは二つの総括セッションを設け、リスク社会論による21世紀の東アジアの総括、および21世紀の日中関係の課題に関する青年研究者の対話を試みた。前者は、今日東アジアで起きている諸問題をグローバル化の拡大と深化によって生起した新たな事態を象徴するものであり、かつ東アジア地域の構造的変化の現れであると捉え、こうした課題を学際的に正面から検討を加えた。後者では、これまで6回の国際セミナーにおいて大学院生ら若い世代の交流の場としてのプラットフォームを提供してきた経験を活かして、錯綜する東アジアの現況をふまえながら、21世紀の日中関係を「考え」対話することの意味と意義を掘りさげて検討した。

(7)国際セミナー終了後、二つの総括セッションへの提出論文の精査と再検討を行い、論文集『東アジアリスク社会：発展・共識・危機』、『21世紀の日中関係：青年研究者の思索と対話』を、OUFCブックレット第二巻、第三巻として発行した（2014年1月・3月、220頁・369頁）。

『東アジアリスク社会：発展・共識・危機』

[序言]

[報告]

報告Ⅰ① 中国の環境問題：リスク、保護、

共働（思沁夫）
報告Ⅰ② 中国的環境問題—風險、保護、
互動（思沁夫）
報告Ⅱ① 中国經濟におけるリスクと不確
実性をめぐって（梶谷懷）
報告Ⅱ② 中国經濟中存在的風險與不確定
性（梶谷懷）
報告Ⅲ① 社会システムにおける安全・安
心・信頼：リスク社会と中国の食を巡る
構造的課題（三好恵真子）
報告Ⅲ② 社会系統中的安全、放心、信頼：
論圍繞風險社会與中国食品之間的結構性
課題（三好恵真子）
[ディスカッサントの提言と回答]
提言Ⅰ① リスク概念・リスク社会・東ア
ジアの統治形態（中山竜一）
提言Ⅰ② 風險概念・風險社会・東亜統治
形態（中山竜一）
提言Ⅱ① 総括セッションに関するコメン
ト（江沛）
提言Ⅱ② 総体討論意見（江沛）
提言Ⅲ① グローバル化の文脈における東
アジアリスク社会のローカルな知と実践
（潘宗儀）
提言Ⅲ② 全球化脈絡下東亞風險社會的地
方知識與實踐（潘宗儀）
回答Ⅰ① 三先生への回答（思沁夫）
回答Ⅰ② 答三位老師（思沁夫）
回答Ⅱ① ハイエクの「自生的秩序」と中
国經濟（梶谷懷）
回答Ⅱ② 德国学者哈耶克的”自主自生秩
序”與中国經濟（梶谷懷）
回答Ⅲ① 食を巡る問題の複雑性とルーマ
ンのリスク概念の適用（三好恵真子）
回答Ⅲ② 食品問題の複雑性與魯曼的風險
概念的適用性（三好恵真子）
[まとめ]
総括セッションのまとめ（高田篤）
主題報告会評述（高田篤）

『21 世紀の日中関係：青年研究者の思索と
対話』

[序]

序Ⅰ①序言（木村自）

序Ⅰ②序言（木村自）

序Ⅱセッション「21 世紀の日中関係」につ
いて（田中仁）

[対話篇]

青年研究者の所見 「21 世紀の日中関係」
について

コメントⅠ① 「21 世紀の日中関係」につ
いての先端的諸言説を解説する（西村成
雄）

コメントⅠ② 解説有關“21 世紀日中関係”
の各種話語（西村成雄）

コメントⅡ① 青年研究者の論文テーマ総
括及び中日関係に対する見解（江沛）

コメントⅡ② 關於綜合青年學者論文主題
及對中日關係的看法（江沛）

コメントⅢ① 「青年研究者の 21 世紀の日

中關係の所見」に関する所感（陳進金）
コメントⅢ② 關於「青年學者 21 世紀日中
關係見解」的心得（陳進金）

各班の討論

討論のまとめ

[思索篇]

歴史 針鋒相對：輿論界對南京國民政府懲
治「反革命罪」的報導與迴響(1927-1931)
（王慧婷）

歴史 盧溝橋事件の拡大とメディアの報道
について：『東京日日新聞』を中心に（鄒
燦）

歴史 現代中国政治史における「公民」：反
右派闘争とその名誉回復を中心に（和田
英男）

政治・社会 中国海権困境及其原因对策的
相關探討：從地緣政治的視角分析（石羽）

文化・科学 汪曾祺小説中的描写與藝術体
現（張煜）

文化・科学 真実という選択：周作人の文
学革命初期の文学主張から見る沈從文の
文学観（楊靈琳）

文化・科学 中國水下文化遺產保護：以白
鶴梁水文題刻為例（陳元棧）

文化・科学 中国的大气污染問題：新標準
背景下的蘭州市大气污染水平的再評估
（潘鈺林）

文化・科学 波動的心理学：脈波測定技術
以及該技術在中国實踐與応用的展望（胡
毓瑜）

認識・イメージ 日本占領下華北における
在留邦人の対中国認識（菊地俊介）

認識・イメージ 中国側から見る日中經濟
協力：1979～1988 年の『人民日報』の対
中 ODA 報道を中心に（王坤）

認識・イメージ 馮昭奎の日本論：「対日新
思考」論争を通じて（周妍）

認識・イメージ 《人民日報》涉日報道研
究（2003-2012 年）（馬瑞潔）

(8) [今後の展望] 本研究の成果から、今後検
討すべき有意な課題として下記の論点がある
ことが確認された。

①歴史学を機軸とする総合化によって、地域
研究の学際性を実現すること。地域研究の学
際性は人類学あるいは国際関係論を軸に具体
化されることが多いが、ここでは、歴史学の
刷新（社会科学と人文学の「対話」）を媒介と
して現代中国地域研究に新たな内実を付与す
る。

②東アジアの知的インフラとして、現代中国
地域研究に関するバイリンガル・マルチリン
ガルな対話空間を構築すること。「日本」で行
う中国地域研究は、日本語・英語とともに、中
国語（漢語）を中心とするバイリンガル・マル
チリンガルな対話空間として構想される。こ
のような「東アジア言語空間」における学際
的中国研究を組織し推進する。

③文理融合プロジェクトを具体化すること。
本研究では、中国地域研究における文理融合

の課題を、歴史学を機軸とする地域研究の総合化（21世紀課題群の整理と認識枠組の再検討）にあたっての不可欠の一部と位置づけて具体化し、その展開を図る。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 31 件）

①田中仁, 1980 年代における中共党史研究の再建と展開・1980 年代党史研究制度的再建と展開, 大阪大学中国文化フォーラム・ディスカッションペーパー, 査読無, 2014-2, 2014, 1-22, <http://hdl.handle.net/11094/27130>

②竹内俊隆, 東アジアの安全保障環境の現状と将来展望・東亜安全保障環境の現状と未来 大阪大学中国文化フォーラム・ディスカッションペーパー, 査読無, 2013-8, 2013, 1-21, <http://hdl.handle.net/11094/26363>

③青野繁治, 中国におけるロックマガジンをリードする雑誌『我愛搖滾樂』創刊号を読む・中国搖滾樂刊物的主流：読《我愛搖滾樂》創刊号, 大阪大学中国文化フォーラム・ディスカッションペーパー, 査読無, 2013-7, 2013, 1-24, <http://hdl.handle.net/11094/26057>

④片山剛, 対自然的擁有形態の多重結構, 当代日本中国研究, 査読無, 1, 2013, 200-225

⑤三好恵真子・姉崎正治, 複合化する中国の重金属汚染土壌と今後の展望, New Food Industry, 査読有, 55-3, 2013, 21-35

⑥高橋慶吉, G・F・ケナンと台湾防衛政策の起源, 阪大法学, 査読無, 63-3/4, 2013, 323-354

⑦高田篤, ケルゼンの民主制論の意義について, 文明と哲学, 査読無, 5, 2013, 107-119

⑧青野繁治, 進化するロック専門誌『通俗歌曲』中国にロックを紹介した刊行物・進化着的搖滾樂専刊《通俗歌曲》為中国介紹搖滾樂的刊物, 大阪大学中国文化フォーラム・ディスカッションペーパー, 査読無, 2012-2, 2012, 1-15, <http://hdl.handle.net/11094/23253>

⑨三好恵真子, 社会システムにおける安全・安心・信頼—中国の食の安全性をめぐる諸課題, 大阪大学中国文化フォーラム・ディスカッションペーパー, 査読無, 2012-1, 2012, 1-21, <http://hdl.handle.net/11094/22996>

〔学会発表〕（計 14 件）

①片山剛, 20 世紀前半、長江中洲の開発と開発農民の具体像：南京付近の中洲を中心に、「近現代中国における社会経済制度の再編」共同研究班, 2014. 1. 17, 京都大学人文科学研究

所

②田中仁, 1980 年代党史研究制度的再建と展開, 第 2 届中国当代史研究工作坊：1950 年代的中国, 2013. 12. 8, 京都大学

③思沁夫, 中国的環境問題：風險・保護・相動, 第 7 回国際セミナー：現代中国と東アジアの新環境, 2013. 8. 21, 大阪大学

④三好恵真子, 社会システムにおける安全・安心・信頼：リスク社会と中国の食を巡る構造的課題, 第 7 回国際セミナー：現代中国と東アジアの新環境, 2013. 8. 21, 大阪大学

⑤Gyo MIYABARA, Chinese Overseas Studies in Pre-war Japan and the East Asian Version of Modernity: Focusing on the Position of “Ka-kyo” both in each Host Country and the Greater East Asian Co-Prosperity Sphere, The 17th World Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, 2013. 08. 9, The University of Manchester (イギリス)

⑥Mizuka KIMURA, Is Overseas Muslim Chinese Chinese?: Questioning the “Chinese-ness” from the Perspective of Muslim Chinese Migrants in Myanmar, The 17th World Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, 2013. 8. 9, The University of Manchester (イギリス)

⑦許衛東, 日中韓自由貿易区協議的意義及前景, 第 6 回国際學術討論會：現代中国與東亜新格局, 2012. 8. 21, 花蓮（台湾）

⑧高橋慶吉, 「兩個中国」與美国前國務卿杜勒斯的對中策論, 第 6 回国際學術討論會：現代中国與東亜新格局, 2012. 8. 21, 花蓮（台湾）

⑨田中仁, 歴史学と諸学との対話：学校間交流・学際的基盤構築から得られたもの, 大阪大学 GLOCOL 海外フィールドスタディ：天津・南開大学, 2012. 3. 6, 天津（中国）

〔図書〕（計 5 件）

①大阪大学中国文化フォーラム編, 大阪大学中国文化フォーラム, 東アジアリスク社会：発展・共識・危機（日中台共同研究「現代中国と東アジアの新環境」①, OUFU ブックレット第 2 巻）, 2014, 220, <http://ir.library.osaka-u.ac.jp/web/OUFC/volume/oufc02.html>

②大阪大学中国文化フォーラム編, 大阪大学中国文化フォーラム, 21 世紀の日中関係：青年研究者の思索と対話（日中台共同研究「現代中国と東アジアの新環境」②, OUFU ブック

レット第3巻), 2014, 437, <http://ir.library.osaka-u.ac.jp/web/OUFC/volume/oufc03.html>

③大阪大学中国文化フォーラム編, 大阪大学中国文化フォーラム, 中国革命・社会変容と世界: 贛州会議中国語論文選 (日中台共同研究「現代中国と東アジアの新環境」③, OUFCブックレット第4巻), 2014, 493, <http://ir.library.osaka-u.ac.jp/web/OUFC/volume/oufc04.html>

④大阪大学中国文化フォーラム編, 大阪大学中国文化フォーラム, 現代中国に関する13の問い: 中国地域研究講義 (OUFCブックレット第1巻), 2013, 306, <http://ir.library.osaka-u.ac.jp/web/OUFC/volume/oufc01.html>

⑤田中仁・江沛・許育銘主編, 社会科学文献出版社 (中国), 現代中国変動與東亜新格局・第1輯, 2012, 575

〔産業財産権〕

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.law.osaka-u.ac.jp/~c-forum/box/global-china.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 仁 (TANAKA Hitoshi)
大阪大学・法学研究科・教授
研究者番号: 60171790

(2) 研究分担者

片山 剛 (KATAYAMA Tsuyoshi)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号: 30145099

許 衛東 (XU Weidong)
大阪大学・経済学研究科・准教授
研究者番号: 10263344

三好 恵真子 (MIYOSHI Emako)
大阪大学・人間科学研究科・准教授
研究者番号: 60294170

青野 繁治 (AONO Shigeharu)
大阪大学・言語文化研究科・教授
研究者番号: 00159302

堤 一昭 (TSUTSUMI Kazuaki)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号: 70283835

木村 自 (KIMURA Mizuka)
大阪大学・人間科学研究科・助教
研究者番号: 10390717

宮原 暁 (MIYAHARA Gyo)
大阪大学・グローバルコラボレーションセンター・准教授
研究者番号: 70294171

山田 康博 (YAMADA Yasuhiro)
大阪大学・国際公共政策研究科・准教授
研究者番号: 70243277

竹内 俊隆 (TAKEUCHI Toshitaka)
大阪大学・国際公共政策研究科・教授
研究者番号: 60206951

高田 篤 (TAKADA Atsushi)
大阪大学・法学研究科・教授
研究者番号: 70243540

高橋 慶吉 (TAKAHASHI Keikichi)
大阪大学・法学研究科・准教授
研究者番号: 60456928

思沁夫 (Siqinfu)
大阪大学・グローバルコラボレーションセンター・特任准教授 (常勤)
研究者番号: 40452445

福田 州平 (FUKUDA Shuhei)
大阪大学・グローバルコラボレーションセンター・特任研究員 (常勤)
研究者番号: 50434585
(平成24年度より研究分担者)

(3) 連携研究者

西村 成雄 (NISHIMURA Shigeo)
放送大学・教養学部・教授
研究者番号: 60030160

丸田 孝志 (MARUTA Takashi)
広島大学・総合科学研究科・准教授
研究者番号: 70299288

日野 みどり (HINO Midori)
同志社大学・グローバル・コミュニケーション学部・教授
研究者番号: 00367632

馬場 毅 (BABA Takeshi)
愛知大学・現代中国学部・教授
研究者番号: 30410559